

都市圏出身の若者 2 人が柳川を PR

地域おこし協力隊として新たに 2 人に委嘱状を交付

■都市圏からの視点で柳川おこし

都市生活者の視点で柳川の地域資源を掘り起こし、新たな魅力を引き出す中でこれらを活用した地域づくりにつなげようと、市は神戸市出身の大野睦さん（26 歳）と東京都荒川区出身の坂田真慶さん（27 歳）を新たに地域おこし協力隊の隊員として採用しました。

地域おこし協力隊は、東京や大阪、名古屋の 3 大都市圏や、政令指定都市在住者に移住してもらい、外部からの視点で新たな取り組みを提案してもらいながら地域活性化を目指す総務省の制度。隊員の期間は最長 3 年です。市は、昨年 10 月に埼玉県出身の写真家、風間英人さんを採用していて、これで同隊の隊員は合わせて 3 人になりました。

■2 人とも国際経験豊富な人材

大野さんはデンマークに留学の経験があり、大学卒業後、住宅リフォーム会社で営業を担当。坂田さんも、英国に留学したことがあり、大学卒業後は、中国やインドネシアなどで人材紹介を経験してきました。ともに国際経験が豊かで、数か国語を話すことができます。

1 月 8 日に行われた委嘱状交付式では、金子市長が「海外での経験を生かして、柳川を元気にする提案をしてください」と 2 人を激励。大野さんは「県外の人に柳川をふるさとと思ってもらえるようなことをしたい」、坂田



地域おこし協力隊に採用された大野さん（左）と坂田さん

さんは「外国から柳川に来てもらえるような情報をたくさん発信したい」とそれぞれ今後の抱負を語りました。

大野さんは市柳川ブランド推進室に所属して地場産品の売り込みを、坂田さんは市企画課で行政情報の発信を担当します。

地域おこし協力隊についての問い合わせは、市企画課企画係（☎ 77・8423）まで。

地域おこし協力隊の先輩、風間さんの仕事を紹介

ドラマや映画で柳川の魅力を P R

10 月から地域おこし協力隊として、活動している埼玉県出身で写真家の風間英人さん。ここでは、風間さんがどんな仕事をしているのかを紹介します。

風間さんは、市観光課に所属して柳川フィルムコミッション活動を行っています。柳川フィルムコミッションとは、映画やドラマなどの撮影を誘致して、柳川の知名度向上や観光資源の開拓を目指す組織。また、エキストラの確保、病院や銀行など撮影ができる施設の紹介なども行い、ドラマや映画の撮影を支援しています。その他、川下りやさげもんなどの写真をインターネットで公開することで、柳川の魅力を外部に発信することも大切な仕事です。

「他のまちにない魅力がいっぱい」と柳川について話す風間さん。「柳川の魅力をどんどん外に発信して、柳川発のドラマを誘致したい」と意気込んでいます。



【上】御花に展示されているさげもんを撮影する風間さん

【下】職場へ戻るとさっそくさげもんの写真をインターネットで公開する準備を始めた

■柳川フィルムコミッション公式サイト開設

柳川フィルムコミッションの公式サイト（<http://www.yanagawa-film.jp/>）が 2 月 1 日に開設します。同サイトでは、柳川の魅力的な場所の紹介やエキストラの申し込みなどができます。ぜひご覧ください。

問い合わせは、柳川フィルムコミッション（市観光課内、☎ 77・8563）まで。



チャレンジショップ 2 月 7 日（金）にオープン

染物「琉球紅型」や、アロマとハーブの販売・体験教室も

市は、2 月 7 日から沖端商店街にチャレンジショップを開店します。同店は市の起業者育成事業のひとつとして設けるもの。将来、市内で開店したいと考えている人が、陳列方法や店内装飾、接客を実践し、その経験を開業に役立ててもらおうのがねらいです。

今回出店するのは、沖縄の伝統染物「琉球紅型」を製作、販売する吉田梨菜さん（金納）、アロマセラピー関連の商品販売などを行う梶島博子さん（城隅町）と辻恵美さん（七ツ家）です。吉田さんは伝統的な琉球紅型の技法を忠実に守って製作したコースターや T シャツなどの作品展示と販売、梶島さんと辻さんはハーブの香りを利用して、リラックス効果や美容に役立てるアロマセラピーとハーブティーの販売、体験教室を行います。ぜひ来店してください。

●開店期間 2 月 7 日（金）～ 3 月 23 日（日）、不定休

●開店時間 午前 10 時 30 分～午後 4 時 30 分

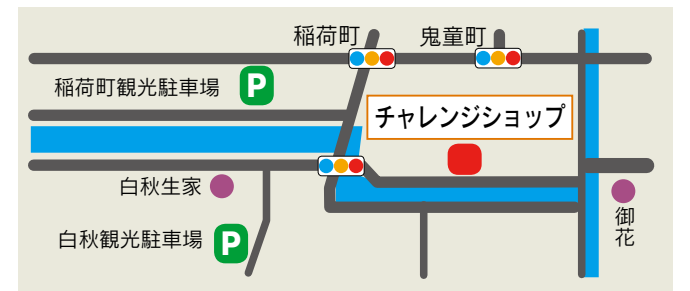
（2 月 7 日は午前 11 時からオープニングセレモニー）

●場所 稲荷町 13・5（地図参照）。駐車場は市営の観光駐車場を利用してください（60 分未満は無料）

問い合わせは、吉田さん（☎ 090・5748・3800）、または梶島さん（☎ 090・7383・3198）まで。



【左】染物「琉球紅型」などを扱う吉田さん【右】アロマセラピーやハーブティーを扱う梶島さん（右）と辻さん



地域で助け合い要援護者を守る

蒲池校区で防災地域づくりのワークショップを開催

■要援護者を支える地域づくり

地域住民に要援護者避難支援の仕組みづくりをしてもらおうと 1 月 15 日、蒲池校区で第 1 回ワークショップが行われました。これは、福岡県災害時要援護者避難支援事業の一環。会場となった蒲池公民館には、同校区の住民約 60 人が集まりました。

■避難場所とルートを地図で確認

会場では、地域ごとにグループに分かれ、地図を使って、水害が発生したときの避難場所や避難経路などを確認する災害図上訓練を行いました。参加者たちは、地図を指差しながら「この辺りは土地が低いので危ない」「この道は昔の土手だから大丈夫」などグループで意見を出し合いながら避難の場所と経路を決定。その後、地域の要援護者宅をチェックして、誰と一緒に避難するかなどを確認しました。蒲池地区社会福祉協議会の中村十三昭会長は「一人暮らしの高齢者が多く住んでいるので、地域で助け合うことが大切」と話しました。

2 月には災害時の連絡体制と自主防災活動の仕組み作りを行い、3 月には実際に避難訓練を実施します。



【上】地図を見ながら地域の避難場所や避難経路を確認した

【左】最後にグループごとに避難の場所や経路を発表